

都藝泥布

酷暑が続いておりますが、会員各位におかれては、お変わりなくお過ごしでしょうか。2025年4月27日（日）の総会・講演会について以下にご報告します。

総会では、会員数の減少による財政難の問題、発表者の固定化などを課題として報告しました。第二号議案では、会報『都藝泥布』の紙媒体による発行から、ホームページからのダウンロード方式、電子メールの添付ファイルでの配信に切り換えることを提案し、了承されました。（希望者には紙媒体で郵送）これについては、ハガキを同封していますので、ご確認ください。

冒頭、総会の成立要件について質問ができました。慣例によって委任状をとらず実施してきましたので、来年度の課題にしたいと思います。

第三号議案の人事では、運営委員会に山内卓郎氏、新理事に沖村由香氏が選出されました。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

講演Ⅰ 京都由来の植物

講演者 肉戸 裕行氏（前京都府立植物園副園長）

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

肉戸氏は、今春まで勤務しておられた府立植物園内の半木^{なからぎ}の森から話を始められた。自然林をそのまま取り入れたエリアであり、榎や桜の大樹がうっそうと生い茂っている。「半木」＝「流木」の伝承（肉戸 裕行氏）を紹介されつつ、平安京遷都以前の樹相の面影を残す貴重な森だと指摘された。



京都地名研究会 会報 第88号

令和7年8月30日 発行

題字「つぎねふ」（山城の枕詞）

揮毫 吉田 金彦氏（初代会長）

編集 京都地名研究会事務局

「布団着て寝たる姿や東山」（嵐雪）の句で知られる「東山三十六峰」について、比叡山（第1峰・848m）と大文字山（第11峰・465m）の間が挟んでいるが、かつては高い山が存在していたという。その山の御影石が浸食され、現在は白川の清き流れとして目を癒すと共に、庭園に欠かせない白川砂として重宝されている。そういえば、比叡山の登り道である雲母坂（きららざか）も、御影石に含まれる雲母に由来する名前である。

比叡山系と愛宕山（924m）の間の北山は、1,000m 足らず山頂が見事に水平に連なっている。この地の北山杉は有名だが、花脊の峰定山には高さ日本一の大杉（三本杉・62m）が存在する。また、地名を冠した名である芦生杉も多く見られる。雪圧によって枝が地面に接し、伏条台杉と呼ばれる何本もの太い幹を持つ独特の姿をしていて、その力強さは見る者を圧倒する。

谷間には、キブネギク（貴船）・キクタニギク（東山の菊谷）など、京の地名に因んだ野草も見られる。ラショウモンカヅラは渡辺綱が羅生門で切り落とした鬼女の腕にちなむ名だが、花は可愛らしい。しかし、現在は多くの野草たちが鹿の食害を受けており、絶滅危惧種も少なくない。人と動物との共生の難しさを改めて思い知らされる話である。

また、桃山御陵の参道に並ぶショウナンボクは、かつての台湾総督府から「献上」されたもので、日本では非常に珍しい並木だそうである。

普段何気なく見過ごしている植物たちの生態や地名との関係等々、改めて考えさせられた有意義な講演であった。（小寺 慶昭記）

京都地名研究会への入会案内

千年の都、京都。ここを起点として近畿から国の内外に及び地名を広く細かく蒐集し、比較調査して、地名を学ぶ学会です。地名は歴史の鏡であり、文化を盛る器です。私たちの暮らしのもとにある地名に目を向けて、日本の文化と歴史認識をいっそう深め、地域の知的活性化に役立ちたいと念じます。年齢、職業などの如何を問わず、いつでも、どなたでも、地名文化に関心をもたれる方々のご参加を歓迎し、ご協力もお願いします。入会金不要。

詳細はホームページをご覧ください。

年会費	3000 円
-----	--------

賛助会員・理事	5000 円
---------	--------

家族会員	1000 円
------	--------

お問い合わせ先

京都地名研究会事務局 入江 成治

E-mail : kyotochimei@gmail.com

会費納入先 口座名 ゆうちょ銀行

加入者名 : 京都地名研究会

口座記号番号 : 00910-1-160705

本会ホームページアドレス

<https://kyotochimei.wixsite.com/kyotochimei>